

## どうして桜は春に咲くのか？

3月4日（月）

なぜ桜は毎年同じ時期に咲くのでしょうか。桜の木は、春に花が散って数カ月後の夏には、もう次の花のもととなる「花芽（はなめ）」ができています。しかし、この花芽はいったん眠ってしまいます。そして、気温が低い状態がしばらく続くと目を覚まして育ちはじめ、温度が上がってくると、一斉に咲くしくみになっているそうです。つまり、桜が咲くためには、冬の寒さと、春の暖かさの両方が必要となります。桜の花はいくつもの条件を満たさないと咲くことができません。桜以外の多くの植物もその条件を満たすのが春なのです。植物の中には、温度だけでなく、日照時間を感じ取って咲く花もあります。例えば、春に咲くアブラナは、日が長くなってくると花芽ができて、花が咲きます。長日植物と言います。秋に咲くコスモスは、日が短くなってくると感じて、花を咲かせます。短日植物と言います。社会科で習った「電照栽培」はこの性質を利用したものです。3年生が登校する日も今日を入れて10日となりました。公立高校の学力検査も一週間後に迫り、まとめの2週間です。週当たりの授業時数が少ない教科は、今週の授業が「最後の授業」となります。

また、青垣中学校1年生女子ソフトテニス部のペアが3月2日（土）に明石公園テニスコートで行われました第23回兵庫県中学校ソフトテニスのじぎくカップ中央大会で見事優勝しました。おめでとうございます。今後の活躍に期待いたします。その他の部活動においても、いよいよ令和6年度シーズンがまもなく始まります。

